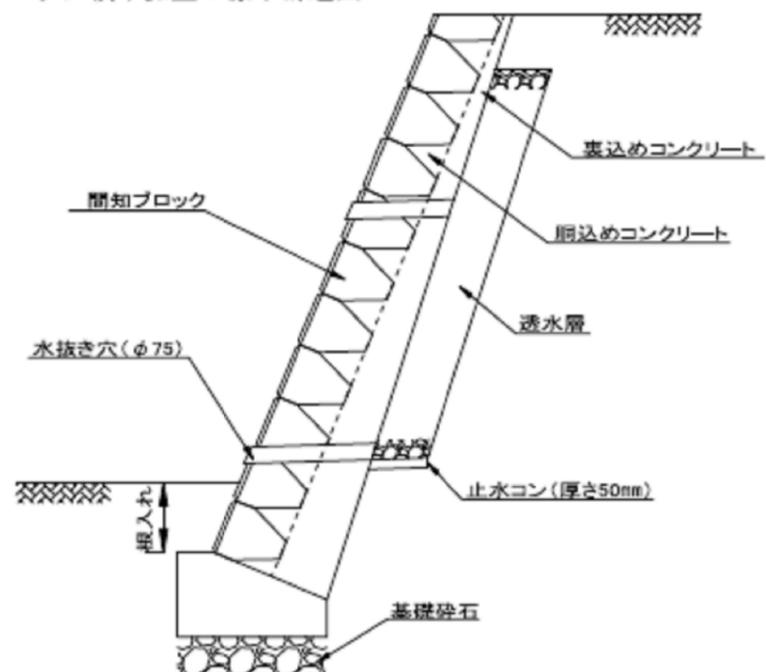
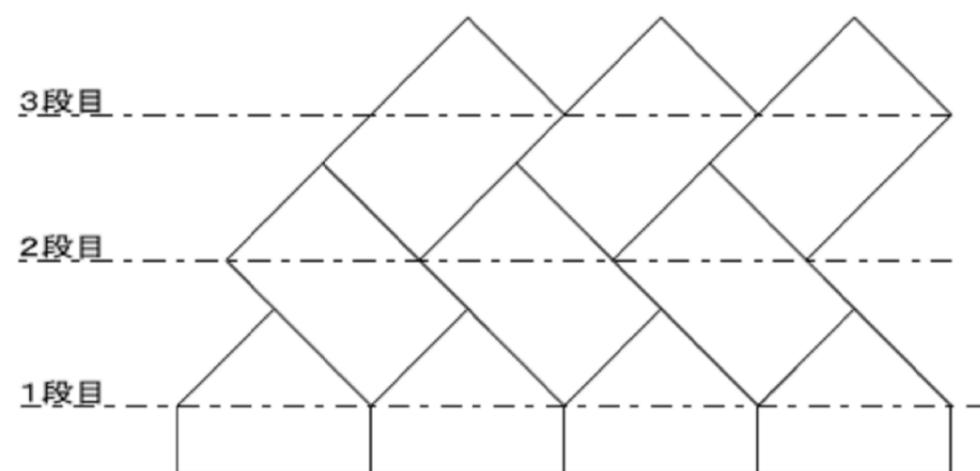


間知ブロック積み擁壁の標準構造図

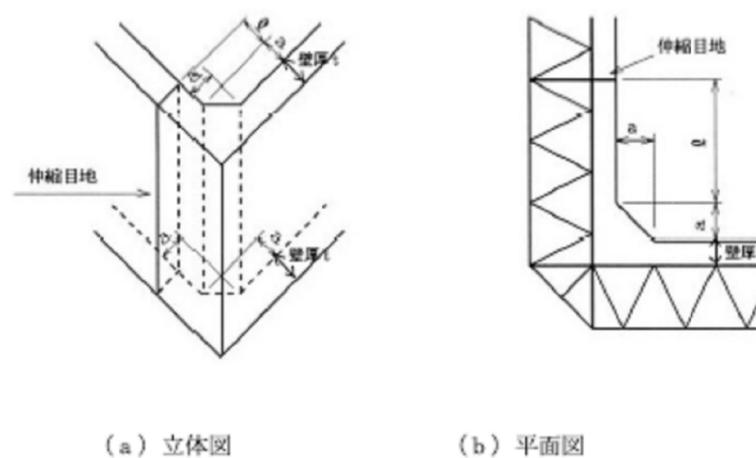


※施工管理上、必要に応じて基礎砕石上部に捨てコンクリートを打設してもよい。

本指針における、段数の数え方は以下のとおりとする。



(2) 間知石等練積み造擁壁



(a) 立体図

(b) 平面図

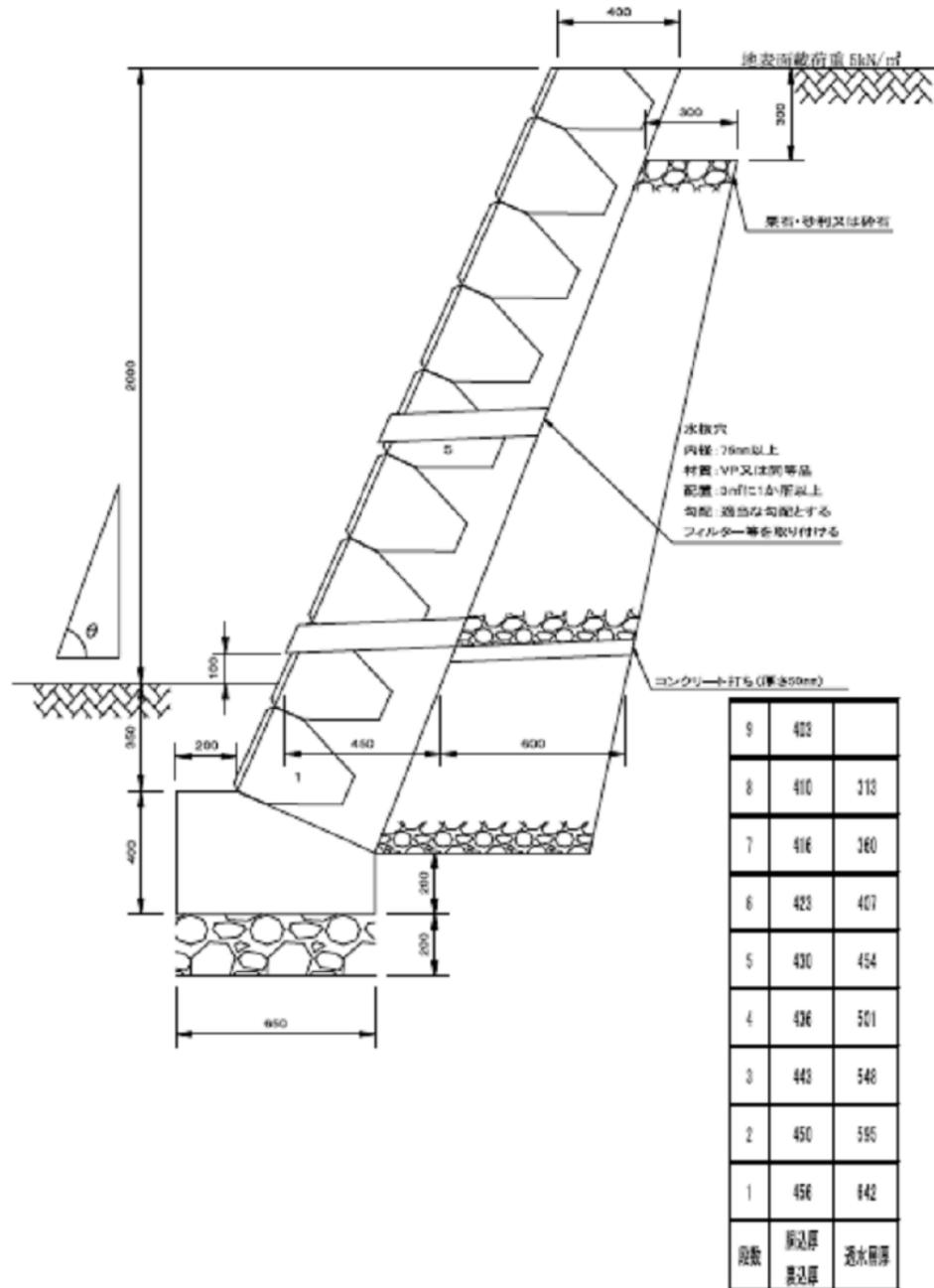
図6-9 隅角部の補強方法及び伸縮継目の位置

- 擁壁の高さ3.0m以下のとき $a = 50\text{cm}$
- 擁壁の高さ3.0mを超えるとき $a = 60\text{cm}$
- 伸縮目地の位置 ϕ は2.0mを超え、かつ擁壁の地上高程度とする。
- 補強を必要とする隅角部の定義は60度以上120度以下とする。
- 補強は基礎部を含めて行うものとする。

図-B 2

高さ2m(盛土)65° < θ ≤ 70°

地耐力:75kN/m²以上、縮尺:1/20、単位:mm

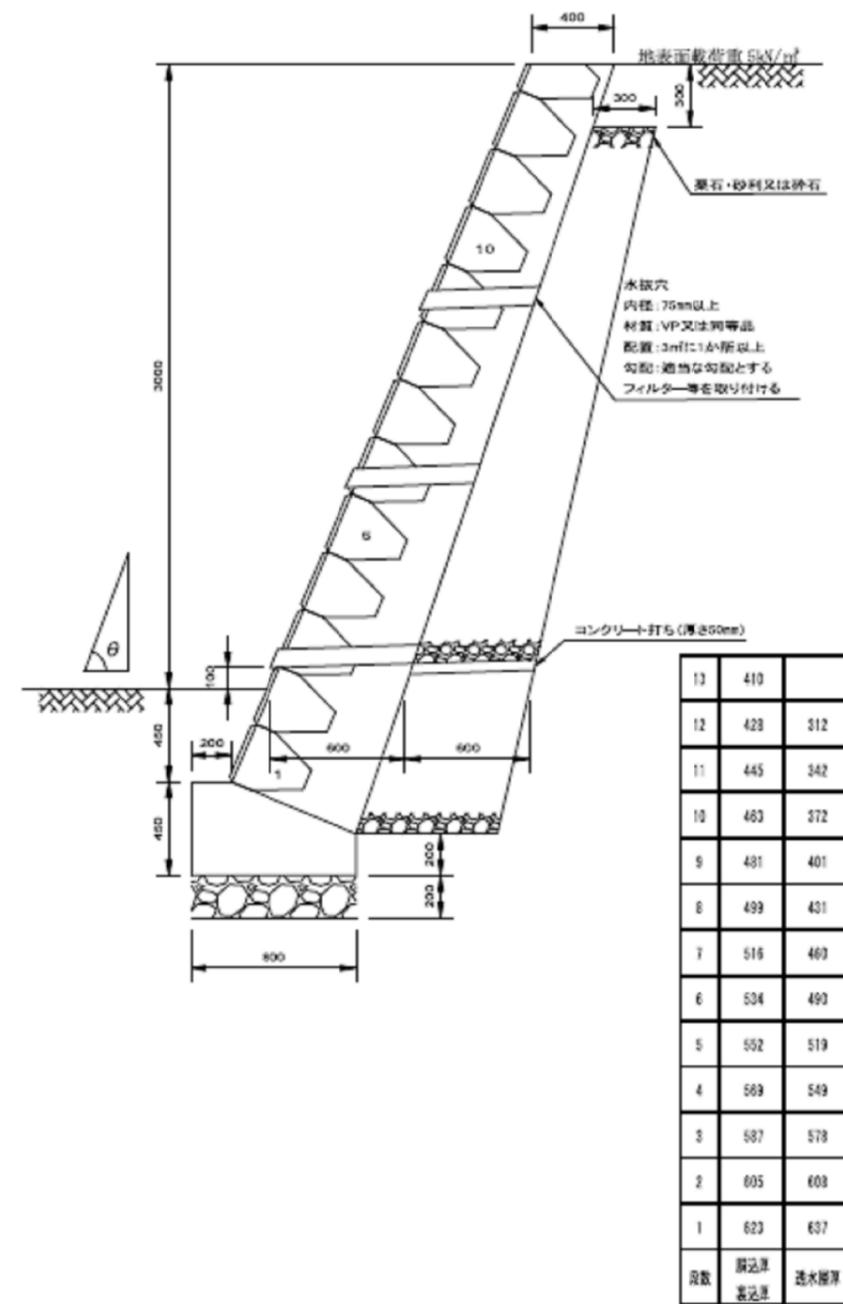


142

図-B 5

高さ3m(盛土)65° < θ ≤ 70°

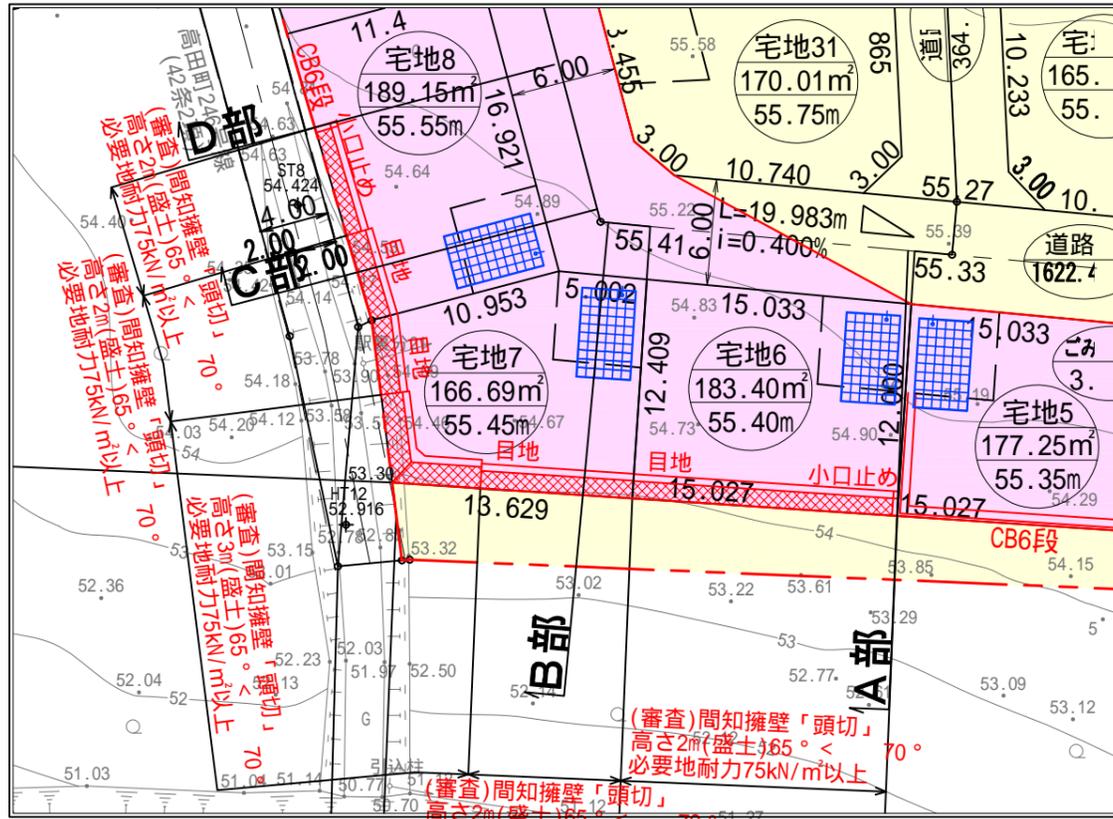
地耐力:75kN/m²以上、縮尺:1/30、単位:mm



145

間知擁壁平面配置図

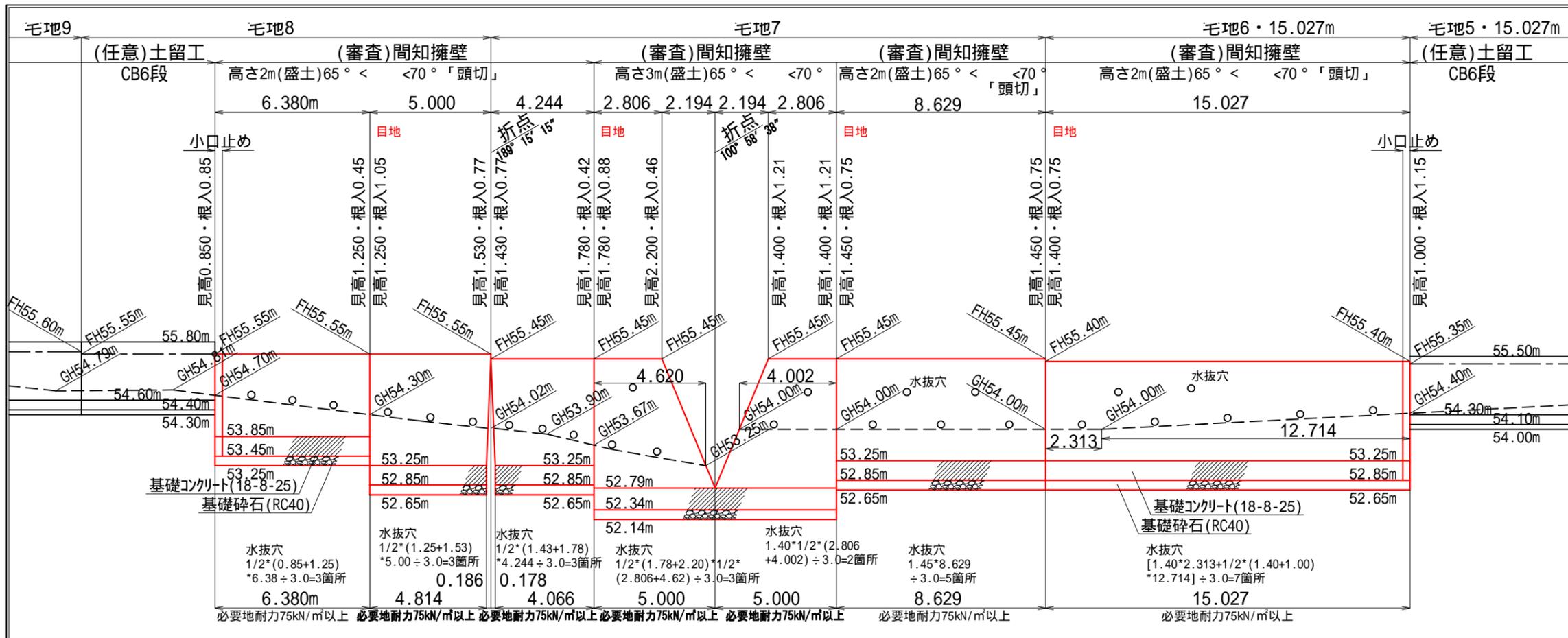
S=1:400



- 水抜穴について**
- 水抜穴の入口には、砂利、砂、背面土が流出しないようにフィルターを設けること。
 - 擁壁の下部及び湧水等のある箇所は、重点的に設置すること。
 - 内径7.5cm以上の硬質塩化ビニール管とし、3㎡に1箇所の割合で千鳥配置にすること。
 - 水抜穴は、排水方向に適当な勾配をとること。
- 伸縮目地について**
- 原則として擁壁の長さ方向20m以内ごとに1箇所設置すること。
 - 特に、地盤の変化する箇所、擁壁高さが著しく異なる箇所、擁壁の構造・工法を異にする箇所には、必ず伸縮目地を設置すること。
 - 伸縮目地は、厚さ10mmのエラストイトを使用すること。
- 審査擁壁の基礎地盤の支持力について**
- 許可後、市職員立会いのもと平板載荷試験で確認し、必要地耐力が不足している場合には、地盤改良等を検討し、千葉市宅地課と協議すること。

間知擁壁展開図

SV=1:100・SH=1:200



事業名	千葉市緑区高田町 造成工事
事業区域	千葉市緑区高田町401番12 他
図面種別	間知擁壁詳細図①
縮尺	図示 作成年月日 令和2年5月13日
事業主	美樹観光 株式会社
図面番号	設計者氏名 関クテクニカル興業 小林 正和